

令和7年度 1回 三朝町子ども・子育て会議 議事録

- 1 日 時 令和7年7月18日（火）午後7時～午後8時10分
- 2 場 所 三朝町役場 第2会議室
- 3 出席者 子ども・子育て会議委員10人、事務局2人
- 4 欠席者 こども・子育て会議委員2人

開会：午後7時

- 1 開会（事務局）
- 2 あいさつ（町民課長）
- 3 議事

司会	そういたしますと、4議事の（1）、第2期子ども・子育て支援事業計画の進行管理について、最初に資料の説明を事務局の方からお願いをいたします。
資料の説明	
○資料1「根拠法令等（抜粋）」	
資料2「三朝町子ども・子育て支援事業計画の進行管理（R6実績）」	
事務局	全体的に、この人口規模の小さい三朝町で子どもも減少している中で、量的なところは足りているということがわかります。 ですが、これからの視点として質のところをどうやっていくか。1人ずつの子ども達を大切にしていくこととか、親の困り感に寄り添っていくことが、今後の課題だと思っています。この計画は量的な目標なので、質についてはなかなか書けないんですが、そこも大事な視点だと思っています。
司会	ここまでについて、意見等あればよろしくをお願いします。
全員	特にありません。
司会	では、次の（2）第3期子ども・子育て支援事業計画の進行管理の方向性について、資料の説明をお願いします。
資料の説明	
○資料3「第3期 三朝町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の点検・評価について」	
資料4「三朝町こども計画、第3期三朝町子ども・子育て支援事業計画（概要版）」	
司会	それでは第3期子ども・子育て支援事業計画の進行管理の方向性について、質問、意見等はございませんか。
全員	特にありません。
司会	それではこれで議事が終わりましたので、5の意見交換に進みたいと思います。 私の進行はここまでです。御協力ありがとうございました。
事務局	せっかく集まっていたので、日頃感じておられることを保護者さん、学童や保育の現場で日頃業務をされている方とざっくばらんに話ができたと思います。 まず資料5を説明させていただきます。これは、学齢期の人口推計ということで、町民課が作成したものとなります。過去6年間の女性の出生率と、今いる実際の女性人口などを掛けて、人口推計を出しております。0歳のところを追って見ていただくと、令和8年4月時点の0歳は13人という見込みを立てています。これは令和7年度の出生数のことです。令和6年は20人生まれたのですが、年ごとにどんどん減り、10人前後になっていく見込みを立てています。そうなってくると、直で影響を受けるのは、保育所、こども園です。しばらくして小学生の数が減り、中学生はしばらく横ばいですが、減少に転じていきます。 皆さんも、以前は園のクラスに20人位いたのが今は10数人や1桁になっており、実感

	としてあるのではないかと思います。そうなったときに、子育て支援の量ではなく質というところが大事になってくると思います。町に生まれた少ない子どもをどうやって大切に育てていくか、あとは地域も一緒にそこを一緒に考えていこう、子育て中の親の本当に助けになることって何かということを経験交換できたらと思います。 例えば、今年から保育所で、主食として炊きたてのご飯を毎日提供するようになって、若干お金はいただくんですが、家でご飯を炊いたりお弁当箱を洗う手間が少なくなり、良い支援だと思っています。情報発信なども充実しています。 すでにできていることもあるし、もうちょっと充実してくると子育てに優しい町になるということがあると思いますので、皆さんの意見をお願いします。 保健師さんからどうでしょう。
委員	出生数が少なくなっていく年々の変化をすごく肌で感じています。 私たちが、お母さんに会える最初は、母子手帳の発行から始まります。毎年、何通の母子手帳が今現在出ているかなと確認しながら行っています。私たちは、妊婦さんから産後のお母さんまで関わるんですが、そのお母さんたちが、子育ての悩みを1人で抱えることがないように、仲間を作りながら、相談先に繋がりがりながら子育てを楽しんでいけるよう、健康な生活ができるようにサポートをしているところです。 これまで、母子手帳の発行後は、ウェルカム baby クラスといって、妊婦さんたちの中期から後期の方を集め、産後の生活とか、育児技術の習得のためのクラスを開催していました。集団で、複数人で集まって会をすること自体が難しくなり、昨年度からは、個別で、助産師さんや保健師が訪問をして、産後の生活のところの情報提供等を行っているところです。 他に、出産後はねんねクラスといって、月に2回ほど支援センターで活動を行っています。月に2回あるうちの1回は、理学療法士さんに来ていただいて、お母さんの体・健康づくりを目的に、体操などを行っています。大体産後は、赤ちゃんのことが一番で、お母さんの健康は二の次になって、後回しになりがちなんですが、その日だけはお母さんの健康にも目を向けていただくということで、腰痛予防の体操だとか、自分を労わっていただくような会を開催しています。 月に2回のうちの1回は離乳食をテーマにしています。離乳食に向かう準備であるとか、悩みの相談先ということで、月に1回開催して、その都度、タイムリーに相談ができるようにしているところです。 お母さんの体づくり、健康管理というところでは、3ヶ月とか産後3ヶ月、6ヶ月と継続して、理学療法士さんにもフォローをしていただきということで、お子さんの健康づくりだけではなく、お母さんのサポートにも力を入れています。 出生数が少なくなった分、しっかり一人ひとりの子どもに関わってあげることができていると感じています。お母さんの笑顔が子どもの元気にも繋がるということを感じていますので、子どもの支援はもちろんなんですけれども、お母さんとか、今後は、お父さんのサポートも力を入れていけるといいのかなと感じています。 また、ねんねクラスなどで、特にお母さんの声を聞く機会があるので、生の声に耳を傾けながら、また事業に反映させていけるといいと思います。
委員	いつも思ってるんですが、0歳から高校生まで、国の方からの手厚い支援があります。でも、何で子どもが増えないんでしょうか。
委員	どうやったら増えるんでしょうね。湯梨浜とか増えてますよね。だからその違いは何なのかないつも思うんですけど。まず、三朝町の地形が違うし、暑さ寒さ、やっぱり冬って大変じゃないですか。 それでも、魅力があって三朝に行きたい、三朝で子育てしたいっていうふうになるにはどうしたらいいかと思ったとき、やっぱり発信をどんどんしていかなきゃいけないんじゃないかという気がします。 私自身は本当に周りの人に助けられながら子育てしたという実感があります。保育園の先生方には本当に、わんぱくな息子がすごくお世話になったと思います。だから、安心して預けられる三朝町ということ、先ほどの話のように色々な試みがされていることを、

	ユーチューブや SNS で上手に発信されるお母さん達がいらっしゃるので、そういうような形で発信したり、取り組みをやればいいなと思っております。
委員	現状でもかなり良くしていただいているなと思ってますので、特に、こういうサービスがあったらいいということを私は感じたことないです。 私より子どもと過ごす時間が多い妻の視点なら、何か意見があったかもしれません。
事務局	人口推計から、子どもが増えるって難しいなと思うところなんですけど、令和6年度が、なぜ20人に増えたかってちょっと振り返ってみますと、砂原の住宅に結構転入してこられて、そこに赤ちゃんが生まれたってというのが、ちょうど令和6年度でした。ですので、やはり住むところがあり、プラス仕事。倉吉に職場があったりしても、三朝から大した距離じゃないし、仕事と住むところがあれば、三朝に暮らしてもいいかな、ここで赤ちゃん産んでもいいかなって言う人が、増えていくのかなあと考えています。
委員	元に戻るかもしれませんが、結婚しない人が多いんですよね。独身が多いですよね。60代50代にたくさんおられますが、何で結婚して子どもを育てていくようなことにならないものでしょうか。
委員	結婚に関してはメリットがないんじゃないでしょうか。 保育園の先生には本当に良くしてもらっているんで、何かして欲しいことは全然ないし、子どもが減って自分の子のクラスは6人ですけど、それはそれで、発表会や運動会とかは、めっちゃめっちゃ撮れ高が良いし、どこにいても撮れるし、席の争奪戦にもならないし、少ないなら少ないなりに子どもは仲良くて、それはそれでかわいいんです。 だけど、家を建てるために土地を探したとき、三朝町には全然土地がなくて、あってもすごく高かったり。三朝に住んでて、こんなに土地が高いのかって思うこともあったので、なかなか町外から引っ越すことはないんじゃないかなって思いました。
委員	子どもが小さいときは、保健師さんとか皆さんと触れ合うことがありますが、仕事をして保育園に預けてしまったら、保育園の中の人との付き合いになります。 うちの子が3歳から入園したんですけど、それまでは、頑張っって外に出なきゃいけないと思って、支援センターに行けるときは行ってました。そういうつながりから、ファミサポの会員をさせてもらってますけど、去年は利用者が1人もなかったです。私が思うのに、今の方は多分、早くから仕事をされてるので、そういうところを利用する間もなく入園される。 付き合いの幅が狭いと言えばちょっと狭くなる。関わる人の人数も限られるし、なかなか周りの地域の人との交流もなくなる。私自身もあんまり集落の人と子どものことで関わりもなかったんで、今、結構、地域でとか言われますけど、どうしたらいいかと言われると、私もどうしたらいいだろうと思うことがあります。かといって、どうして欲しいって言うのも、なかなか難しいと思います。
委員	最近、園では、地域の方と触れ合う機会を多く持っています。園がある地域以外からも町内色々なところから子ども達が来ますので、様々な地域の方々とも交流をしたいと思って、レスポワールで行われるいきいきサロンに参加させてもらい、高勢、三徳、三朝、小鹿地区の地域のお年寄りの方と交流ができました。さらに、湯のまち老人クラブの方が交流を持ちたいということで声をかけていただいたりします。 年々、園児数が少なくなってきた、昨年よりも今年は10名、今のところ少ないんですが、少ないなりにできること、そういう地域の方々との交流も含めてできる、子ども達が生き生きと活動できるよう、計画を立てていきたいと思っております。
委員	さっき保護者さんも言われたんですが、うちの園も1桁の人数のクラスが増えちゃって、園で行事するのも、保護者会の行事をするのも本当に大変になってきたなと感じているところです。 子ども同士の関わりも、メリットもあればデメリットもあって、私たちにできることは充実した保育と特色ある保育を、今も色々させていただいてますけども、どんどん進化させていかないと、三朝で子育てしたいなと思ってもらえないだろうなと、去年からこの会に参加させてもらっている中で、思っています。
委員	質問ですが、来年度から誰でも通園制度が始まるのは、私たちも聞いているんですけど

	も、三朝町でも、さっきおっしゃったように、生まれた後1年経つか経たないかうちに、割とすぐお母さんは復帰され、0歳児で入園されます。早い方では本当に2ヶ月から入園される家庭があるんですけど、その中で、入園されるまでは支援センターとかに通っておられる姿も見ます。 そこで、どこにも所属されていないとか、生まれてるけど、どこにいるかもわからないとか、連絡も取れないというご家庭は、今の現状として三朝町にありますか。
委員	町に住所があれば必ず連絡が取れ、今どこにおられるか大体わかっています。けど、里帰りで三朝に住所がなくて、ただこっちに今生活の実態があるっていう方については、ちょっと把握ができなくて、そういう方が支援センターに行かれたりすることが事実あります。そこについては、その方がどんな方かの問い合わせが、こちらに来ることがありますけど、わからないのが現状です。
事務局	お家におられて、まだ園に入られてない方が、どれくらいおられるのか数えてみた時に、実は1桁ぐらいしかおられなくて、1桁の人が支援センターに行ったり、誰でも通園制度を使ったりということなので、国が進めるようにサービスの体制は組むんだけど、実際使われる方は、都会とは全然違い少ないのが現状だと思います。 誰でもいつでも使えるようにということが大事ということですけど、1歳になったら入園しちゃうし、三朝町では厳しいところです。
委員	主任児童委員としての役割を持っていますが、ブックセカンド事業と言って、1歳のお誕生日に絵本を届けるというお仕事を仰せつかっています。2人で手分けしてやっていることもあって、本当に件数が少なくてびっくりするぐらい。もっと忙しいくらいがいいなと思うほどに、本当に子どもが少ないなと感じます。 ほんの最近ですが、県外にいる我が家の子どもが、将来のことをどう考えているのか、こちらに帰る気があるのか、膝を突き合わせて本気で話をしようと思って、話をしてきたのですが、2人の子どもは、本当に三朝町が大好きなんですね。多分今の子ども達も三朝町のことが好きだと思うんです。でも、不便さだったり、仕事がないとか、気候の問題とかを考えると、帰って来るのを躊躇してしまっているという感じ。 統計では子どもが減ってるんだけど、東学童クラブの登録者は年々増えています。人数が増えると大変で、この夏休みも、支援員さんは、大丈夫かなやっていけるかなと困っておられます。子どもを扱うのが本当に大変で、言葉遣いが悪かったり、馬鹿にされたりするのに耐えられる自信がないと言われ、指導員さんのメンタルも考慮してあげないといけない、だけど支援員が足りないしと、苦労しております。
委員	学校教育の視点から、ちょっとトピックスですけど、資料5を見ていただければ、今年度の小1の人数が28人で30名を切りました。今年度からいよいよ、1学年1クラスの体制になりました。そして、令和12年には、この小1の子が小6になって、全ての学年が1クラスに。令和15年度には、中学校も全て1クラスになります。これくらい子どもの数が減っていくということですが、今の日本の教育としては、令和の日本型教育ということで、個別対応型な教育学習と、共同学習を進めていきたいと思います。我々が子どもだった頃の集団的あるいは一方的な授業の作りから、教員の授業の進め方も変わりつつあります。 先ほどにもありましたが、地域との関わりをどんどん進めていこうということで、コミュニティスクールも、三朝町は昨年から勧めておりまして、地域の方々と子ども達が関わられるような機会をどんどん増やしていくことが、三朝らしい教育に繋がるんじゃないかなと思って、頑張っていこうと思います。
委員	小・中学校、保育園と地域の人とのコミュニケーションが、コミュニティスクールにより充実していく中で、学童保育も1日ずっとは無理だけど、そういう人たちに来てもらうのはどうでしょう。 例えば、年中行事のことやその準備を地域のお年寄りとかから教えてもらうとか。そして、子どもの怒り方も今はなかなか難しく、虐待だとか言われてしまうけど、私たちの子どもの頃は、地域の人から叱られ育ち、しちゃんいけないことを教えてもらっていたと思うので、親御さんにも了承してもらいながら、地域で子育てする風土を作り上げて

	いくことを思います。
事務局	そういうやり方に似たもので、学童クラブとは別に、放課後子ども教室という、先ほど言われたような地域の方々が関わり合いながら、子どもに色々な体験をさせているというような取組があります。町内ではできていませんけど、そういうことも今後、考えていくこともいいと思います。
委員	今は、多様性ということが重視されるようになってしまいましたので難しいですね。
事務局	言われるように、多分今まで過ごしてきた社会全体の流れが、今の社会を作っちゃっています。それによって結婚の価値も子育ての価値も、子どもに対する接し方も変わり、地域の大人たちも、地域の子供達に関わることの姿勢も少しずつ変わってきて、何が悪いって、この発展した社会の流れで、今のこの時代ができてしまっているんだろうなと思います。 ですから、なかなか答えが出ないのは当たり前のことだと思うんですけど、全てに関わる人が少しずつ少しずつ良い方向に変わっていくのが大事なのかな、そこからじゃないと、何もかもが進まないと思います。 三朝に住んでもらうということも皆さん言われるんですけど、やはり仕事や住む土地があるということ。以前は親と同居で帰ってくるということがあったんですけど、その価値観が変わり、同居される方はなかなか少ない。やっぱり時代がそういうふうになってしまっている。時代の流れを変えていけるわけではないんですが、今の価値観に合った形で三朝を選んでもらって住んでもらい、そこで子育てができるということを、全ての方がそういう意識で取り組んでいかないと、これはなかなか上向いていかないだろうなと思います。 誰かがこれを演説して政治の方へつなげる、全てがそういうふうには動かないとならないのかなと思います。でも微力ながら、役場の職員は多分自分の担当する業務で、そういった方向を考え、一緒の方向を向いて、少しずつ頑張っていけないのかなと思っています。 どこかのタイミングで情報共有しながら、皆さんからいただいた意見を参考にしながら、前を向いていくという形が必要なのかなと思っています。なかなか結果も出ませんし、先も見えないですけども、少しずつ変わっていくということが大事なのかなと思います。 今日は色々なご意見、ありがとうございました。

6 その他

次回会議を1月以降に開催します。

7 閉会 午後8時10分